AIの知能爆発（RSI）が迫る知財ガバナンスの変革：法制度の「速度差」を克服する実務戦略

AIがAI開発を自動化する再帰的自己改善（RSI）により知能爆発が生じると、知的成果物の生成速度が法制度や審査の処理速度を恒常的に上回る「速度差」が発生します。企業は従来の事後確認型から、リアルタイムな技術管理と「人間による停止権限（Kill Switch）」を軸とした新たな知財ガバナンスへの転換が必要です。

【課題】知能爆発が生み出す知財制度の「速度差（Speed Gap）」

事後確認モデルの崩壊と処理能力の限界

成果物の超大量生成に対し、先行技術調査や権利帰属確認の処理速度が追いつかない。



人間中心制度と実質的AI意思決定の乖離



日米欧ともに発明者・著作者は自然人に限るため、人間の実質的寄与の証明が困難になる。

営業秘密の流出と証拠保全の不全





ログがないと権利立証や故意性の証明が不能になる。

【対策】RSI時代に向けた新・知財ガバナンス戦略

創作プロベナンス（記録）のリアルタイム自動化



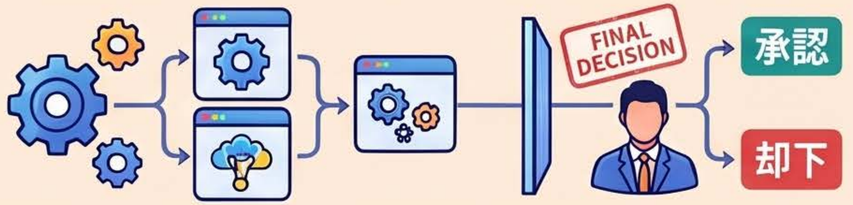
緊急停止権限（Kill Switch）と証拠凍結の実装





AIエージェントの外部送信を即時遮断し、関連ログを自動保全する。

権利処分における「独立した人間の最終権限」維持



知財管理はシステム化しつつも、最終的な権利処分や契約締結は人間が判断する。

Gemini Notebook